第６６号
会報　文化財保存新潟県協議会
2019年８月２１日発行

文化財保存新潟県協議会・第２０回大会

『あなたのお宝、どうします？ ―歴史資料の保存・管理と活用―』

今年度の文化財保存新潟県協議会総・大会を以下のように開催いたします。

総会は文化財保存新潟県協議会会員（新潟県内在住の文化財保存全国協議会会員）が年に一度集まり、本会の活動を振り返り、今後の指針を協議する重要な会です。また、大会は広く市民に参加を呼びかけ、遺跡と歴史を一緒に学ぼうという機会です。

今年３月、ある県の埋蔵文化財センター職員が博物館所蔵の縄文土器を転売し窃盗容疑で逮捕されるという事件が発生しました。各地に所蔵されているはずの国宝や重要文化財の中に、行方不明のものがあるという報告もなされています。これらは大変稀なケースですが、考古資料の保存と管理について考えさせられる事案です。遺跡の発掘調査や分布調査などで発見された土器や石器などの遺物の多くは、調査にあたった行政機関等で厳正に保存・管理されているはずです。しかし、収蔵スペースの問題や管理にあたる専門職員の人員不足など、そこには様々な問題がありそうです。さらに、個人で収集された資料も、世代交代の中で十分な管理・活用が可能なのか切実な問題です。

そこで、今回の大会では歴史資料の保存・管理について、大学や高等学校などの教育機関、博物館や行政機関など様々な立場でどのような課題を持っているかを浮き彫りにしていきます。タイトルに掲げた「あなたのお宝」は、しかし将来の市民もふくめた「みんなのお宝」であるべきです。これら歴史資料の活用についても議論を深めていきましょう。

大会は事前申し込み不要です。懇親会は申し込みが必要です。みなさんふるってご参加下さい。

と　き：２０１９年９月２９日（日）

ところ：新潟市歴史博物館（みなとぴあ）・２階セミナー室

日　程：総会　１２：３０～１３：００

大会　１３：００　一般受付開始

１３：３０開会～１６：４５（終了予定）

講演「学校資料の保存と活用」和崎光太郎さん（浜松学院大学短期大学部）

問題提起「考古資料の保存・管理と活用の現状と問題点」

橋本博文さん（本会会長・新潟大学名誉教授）

報告「みなとぴあ収集の考古資料の保存と管理」

小林隆幸さん（新潟市歴史博物館副館長）

「わたしの歴史コレクション」広瀬秀さん・大関允良さん（本会会員）

懇親会　１７：３０～（要予約。会費５０００円程度。）

※資料代５００円をいただきます。詳しくは、同封のチラシをご覧下さい。

第１９回総・大会「遺跡を活かしたまちづくり」を開催！

文化財保存新潟県協議会・第19回大会参加紀

川上真紀子

『考古学のための法律』を著した久末さん

暮れも押し詰まった2018年12月22日、文新協第19回大会「遺跡を活かしたまちづくり」が、新潟市歴史博物館（みなとぴあ）２階セミナー室で開催されました。本年4月から施行された文化財保護法関連の大きな変化（活用が重視されていること、文化財保護行政が首長部局に移管可能になったこと）を考えようという企画で、多くの方が集まり、新鮮な学びの場となりました。

およそ50名の熱心な市民が参加

そこで大阪市立大学の久末弥生さんをお迎えして、都市と遺跡の保存の在り方をヨーロッパの実例を通してお話しいただきました。久末さんは法律の専門家として、まず、文化財行政の二つの視点を強調されました。一つは都市の持続可能性と調和すること、二つ目は都市のアイデンティティの体現として遺跡を位置づけることです。そのうえでイギリスの文化財保護行政についてお話しされました。

イギリスでは何といっても大英博物館が注目されます。この博物館は個人の膨大なコレクションを保存するために作られた歴史を持ちます。しかし、ただ保存するのではなく、18世紀半ばに民衆にも公開される点で新しいものでした。そして、全国に博物館が新設されていきます。現在は、遺跡は指定遺跡あるいは古代遺跡として保護されています。指定遺跡とは保護のためには最大限の努力が必要な遺跡で、もし破壊すれば、犯罪として扱われ、刑事罰を伴います。このような遺跡指定を行う組織がイングリッシュヘリテージと呼ばれる組織で、国所有の文化財の保護管理を行い、文化財行政を管理運営しています。日本でも有名なナショナルトラストは民間組織で、イングリッシュヘリテイジの一部に組み込まれています。

フランスでは都市計画と考古遺産の共存を目指して法整備を行っていますが、2001年に法が改正され、予防考古学という考え方が示されています。これは破壊を未然に防ぐという考え方で、開発が行われるとしても遺跡の破壊はさせないという姿勢です。例えば建物が建つとしても遺跡がその中に組み込まれる建て方をします。その意味では最初から活用が前提となった保存ということです。

最後に日本との比較をされました。今回の法改正は活用を前面に出す方向は誤ってはいないが、実現のためには都市計画法などの関連法整備が不可欠であること、保存運動がないと保存できない状況がイギリスやフランスと比べると遅れていることなどを指摘されました。

牡丹山諏訪神社古墳関連のレプリカや模型

第２部として橋本博文さんが牡丹山諏訪神社古墳の調査経過を報告されたのち、新潟市東区の方々４名が登壇され、牡丹山諏訪神社古墳の活用の具体例を話されました。齋藤聖子さん（前東区長）は区長として、また古墳まつりの巫女として経験をお話しされました。金子義雄さん（東区歴史浪漫プロジェクト実行委員会委員長）は沼垂柵を探すプロジェクトの楽しさを、近藤尚子さん（東区市民劇団、座・未来の脚本家）は、牡丹山諏訪神社古墳を舞台とする演劇について映像を含めて話されました。そして長良司さん（牡丹山古墳まつり実行委員長）が古墳の上で行われた祭りについて語り、大会は終了しました。

古墳まつりについて話す齋藤さん

【参加者の感想】

〇イギリスとフランスの状況が良く理解できた。フランスでは国家戦略を考えている点が、日本とちがうと思いました。

〇イタリア人と話していると、日本は歴史の浅い国だと思い知らされることが多かった。今日、英仏というローマ帝国の辺境地から見ると、日本には古い遺跡が多いと耳にし、意外だった。クックなどの冒険家を大英博物館が資金援助していたという逸話は新鮮だった。

〇保存と活用、開発と保護の対立から両立へすすんできた歴史がわかった。東区のまちづくり、すばらしいです。　　〇海外の遺跡保護と、地元の例が一緒に聞けて、非常におもしろかった。

〇初めての参加。大学の授業を受けている感じだったが、勉強になった。文化財を保護することは、歴史に学び、未来を描くことにつながっていくと感じた。

〇地域の「宝」を掘りおこし、それらを活用した「街の活性化」プラン、実践されている過程、大変参考になりました。有り難うございました。

〇ヨーロッパ都市に見る持続可能な遺跡保護は興味をもって聞きましたが、日本の場合、目の前のお金、例えば遺跡を避けて道路を作るなどに欠けているのだと思う。1753年の大英博物館法「永久保存」の根拠が分かりました。

〇タワーマンションと考古遺産のお話はなるほどと思いました。どちらが稼ぐ力があるか、誰が考えてもスグに分かります。「ファミリーフレンドリー企業」は自治体でも推進していますが、「カルチャーフレンドリー企業」もぜひ新設した方が良いと思いました。「まちづくり」はマチやムラを活性化させるキーワードです。文化遺産を活用することの一例（リモージュ市）は参考になりました。「保護すべきかどうか」ではなく、「どちらがもうかるかどうか」という視点から、法律もまちづくりも変えていかなければならないことが、よくわかりました。

〇今までお聞きすることができなかった内容で、新鮮で、分かりやすく、いい勉強をさせていただいた。リレートーク、地域の方々の熱心な取り組みを知って、参考になった。

〇なかなか聞く機会がないような貴重なお話しを伺えて良かったです。東区の方々の活動もがんばっていて感動しました。

【追記】なお、大会に先立ち行われた総会では、「2017年度活動報告」「2018年度事業計画」などの議事が承認されました。また、大会後、会場近くで行われた懇親会も、講師や報告者の方々を囲んで大いに盛り上がりました。ここにご報告させていただきます。（事務局）

百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録決定！

「伝仁徳陵立ち入りレポート 世界最大の前方後円墳・大山古墳の謎」報告

小林隆幸

豊富な資料を紹介。熱のこもった橋本会長。

7月6日、第43回世界遺産委員会において「百舌鳥・古市古墳群」が世界文化遺産に登録されることが決定しました。

その決定を遡る2019年3月2日（土）、標記の歴史講演会が、当会橋本博文会長を講師に、新潟市歴史博物館（みなとぴあ）を会場に開催されました。百舌鳥古墳群の中心的な古墳である大山古墳は、最大の前方後円墳であるばかりか世界最大級の墳墓として広く知られています。被葬者はまだ確定されていませんが、宮内庁では仁徳天皇の陵墓に治定しており、世界遺産への登録では「仁徳天皇陵古墳」とされたようです。昨年11月に宮内庁と堺市によって共同調査が行われ、立ち入りが認められた国内16学会の代表の一人として橋本会長が現地におもむき調査の現状を確認、これまで分かっている大山古墳の実態とともに伝えてくれました。

今回の調査の対象地は一番内側の濠を囲む堤防（第１堤）の南東隅で、堤の土留めなどの養生工事に先立つ調査として、遺構・遺物の確認が行われたようです。その結果、列状に並ぶ円筒埴輪や古い時期の形象埴輪である蓋（きぬがさ）埴輪、こぶし大の石を並べた石敷きの遺構が確認されました。堤防上の一部の調査でしたが、多くの情報が得られた調査結果を橋本会長は現地の臨場感とともに伝えてくれました。

一歩たりともそのエリアに立ち入れない現状において、私たちが古墳の新たな情報を探し出すことは困難です。橋本会長は調査報告に先立ち、古墳の実態を探る手掛かりになる過去の情報も紹介してくれました。明治5年に大山古墳の前方部斜面から埋葬施設があらわれ、その時に確認され記録された長持形石棺や甲冑などの図が残されています。その図は着色され詳細に描かれたもので、今となっては古墳を解明する貴重な情報源です。また、その時の出土品と思われる鏡や大刀などがボストン美術館に収蔵されており、その写真もあわせて紹介してくれました。それらは大王にふさわしい埋葬施設であり副葬品ですが、あくまで前方部からの出土であり、後円部の埋葬施設はさらに大きいだろうとのことです。副葬品はどのようなものが納められているのでしょうか。想像ができません。

講演はそのほかに、江戸時代に描かれた古墳の絵図、大山古墳を含む主要前方後円墳の変遷、出土した石棺や埴輪の評価、陵墓公開の経緯や今回の調査に対するマスコミの取り上げ方など多岐にわたりました。2時間半の講演時間でも足りないくらい充実した内容でした。これまでの古墳の

規模を示す全長486mという数値は濠の水上に現れている部分であり、古墳そのものは500mを超えるという話題も興味深いものでした。

今回の調査に堺市の調査員が加わったこと、また多くの報道陣や市長まで限定公開に参加したことは、これまでの陵墓の調査や公開になかったとのことです。オーセンティシティー（真正性）や公開性を重んじる世界遺産登録が背景にあったからではないかとのことでした。国をあげて世界遺産登録への期待が高まっていたことが感じられます。

会場には超満席となる約120名が詰めかけ、その関心の高さがうかがえました。

----- **【参加者の感想】** -----

○いろいろな調査の裏話など聞けておもしろかった。中央の古墳はなかなかいけないが、いろいろ聞かせてもらっておもしろかった。太田天神山の巨大さにおどろいたが、大仙古墳はこの倍もあるとは。築造時より1500年、土の山に松がはえ（江戸時代）今、常緑樹の森となっているというのは、植物学的にもおもしろい。

○伝仁徳陵の現状及びこれまでの来歴が知ることができて興味深かった。世界遺産登録を目指した中での保全整備の方向性についても注目していきたいと思う。

○私の時代には普通に仁徳陵と習いましたが、今は大山古墳。不思議です。歴史が進み新しい事実がわかり、歴史が常識が変わる。不思議な学問です。新しいことを作るのではないけれど、古いことが新しいことに変わる。これからもどんどん新しい歴史が判明していくことを期待します。ありがとうございました。

○大変興味深くおもしろく講演をきかせていただきました。ありがとうございました。　資料は大変役にたちました。今後よく資料を検討してみたいと思います。　やはり現地に行ってみたいと痛感しました。新潟県及び群馬県の遺跡をみてみたいと思います。

○限られた情報で比較研究する困難さを知りました。

○初心者ですが、非常に分かりやすい話でした。このような貴重な機会がありがたい。貴重な資料を再度自宅で読み返す楽しみが増えました。どの内容も、日本の歴史を考えるための新たな視野が広がったように感じます。ありがとうございました。

○専門的なお話をきかせていただき有難かったです。それにつけても、後円墳の方の公開はいつになるのでしょうか？　宮内庁は、仁徳陵の世界遺産を目指すなら、もう少し公開の努力をし、手入れ（保存・整美）をして、堂々と目指して欲しい。

○橋本先生のお話はレジメに書かれていることの何倍もの内容があって、ついていくのが大変ですが大変面白かったです。

○とても興味深い内容でした。正しい陵墓の治定を!!

○タイムリーな講演会だった。まだ宮内庁のバリアーが高いと思った。

○日本の小学校で学んだ人ならば誰でも知っている「仁徳陵」。でも、ほとんどまだわからないことだらけなのだと知りました。石棺の前に剣や甲冑がまつられているなんて、死者に対するとむらいの気持ちとともに、ロマンを感じました。（言われてみれば「宮内庁管轄」ですね）。次回も続きをお願いします！

○貴重な遺跡なのに非公開だったとは。「平成」後には全面公開がされる事を望みたい。

○教科書にも載っている有名な古墳ですが、秘密のベールにつつまれている陵墓であることがわかりました。秘密であると興味はわきますが、心残りがつのります。ぜひ公開してほしい。

柏崎で初めての遺跡講座で西岩野遺跡の調査成果を確認！

遺跡講座「西岩野遺跡と弥生時代の柏崎平野」報告

木村英祐

柏崎市内の調査経験を語った中島さん

約60名の参加で会場はいっぱいに！

熱心な質疑応答が続く・・・

2019年4月13日（土）、柏崎市産業文化会館を会場に、文新協・柏崎の遺跡講座「西岩野遺跡と弥生時代の柏崎平野」を開催しました。2017年11月の新聞発表以来、話題を呼んだ柏崎市西岩野遺跡について、そして周辺の弥生時代遺跡について、遺跡の調査を担当された柏崎市教育委員会の中島義人さんから現在までにわかっている遺跡の状況、そして関連する同時代の周辺遺跡についてお話しいただきました。

まず、中島さんは2017年の発掘調査成果をまとめた『新潟県柏崎市西岩野遺跡（第５次）発掘調査報告書』の刊行について紹介された上で、これまでの７次にわたる調査でわかっている遺跡の実体を説明されました。

５次調査で見つかり話題を集めた大型掘立柱建物については、１間（4.6m）×３間（約9m）の建物であること、柱穴が1ｍ～1ｍ50cm、85cm～1m05cmのきれいな長方形の柱穴が掘られていること、柱穴の深さは深いもので90cm以上あること、柱の直径が40cmであることなどの特徴を指摘されました。普通の建物の柱では20cm程度でも大きいと言われるのに、どうしてこのように太い柱が必要だったのかという問題に対しては、「太い柱はおそらく高さを求めた。それを立てるために大きな柱穴が必要だったと考えている。」と述べました。柱穴の中からは、有段口縁の壺、長野からもたらされた箱清水式など弥生時代後期の土器が出土していること、柱穴の中の土に含まれる炭化物の炭素C14年代測定で139年から216年頃という結果がもたらされたことなどから、「建物は弥生時代後期に間違いない。」としました。独立棟持柱と言われる柱穴については、昨年、建物遺構を検証した奈良文化財研究所の建築遺構の専門家の見解を紹介し、きれいな長方形になる他の柱に対して独立棟持柱の深さが浅く、柱穴の形も丸いこと、向きが建物の軸に揃っていないなどの理由を挙げ、独立棟持柱とすることに消極的な見解を示しました。しかし、「このような大きな柱を持った弥生時代後期の建物は、県内では西岩野だけで貴重であることに変わりない。独立棟持柱かどうかで建物の性格が変わってくるかもしれないが、県内で唯一で日本海側でも最北端の大型掘立柱建物として重要。」とその価値を述べました。

休憩をはさんで、柏崎平野の弥生時代遺跡について紹介しました。柏崎平野では、中期後半の下谷地遺跡、箕輪遺跡はあるが、後期前半の時期の遺跡はないこと、中期後半は平野の真ん中に遺跡

が見られるが、後期後半は丘陵の縁や丘陵の上に集落を営むものが増えてくることなどを指摘し、様々な遺跡の調査成果を写真を交えて紹介しました。

お話の後、参加者からは、勾玉の持つ社会的背景や宗教的な意味、弥生時代後期とされる遺跡の時期の中での遺構の変遷について、大型掘立柱建物の中にある屋内の柱をどう評価するのか、独立棟持柱といわれる柱穴の性格について、遺跡周辺の砂丘の形成時期について、弥生時代の住居構造など、多岐にわたる質問が出され、中島さんに答えていただきました。

遺跡の今後については、６次調査部分については発掘調査を継続していくこと、遺跡は壊さずそのまま保存するのが基本だが、状況をみながらこの遺跡の重要性を検討する調査をしていくとしました。昨年度の調査を受けて、「ますますこの遺跡はわからないことが多すぎる。」と述べ、「遺跡の西の方は、上の砂が３ｍから多いところで10ｍ以上もあるので、現地を歩いても遺物が拾えない、今見えている地形が当時の姿ではない。遺跡の実体解明はかなり難しい。」との苦労を吐露する場面もありました。

当日は、満開の桜が気持ちよいお花見日和の中、60名近くの参加者にお集まりいただきました。ご参加、ありがとうございました。

【参加者の感想】

〇子供のころ荒浜砂丘で遊びました。雪が降ればスキー、天候が安定した時は手作りのグライダーを飛ばしたものです。その足元に遺跡があったとは大変な驚きです。是非後世に残してください。
〇まだまだなぞだらけの西岩野ですが、これからの調査に期待しています。報告会をつづけてやっていただきたいです。
〇西岩野遺跡は未だ全容不明と了解。　〇地元の昔のことが少し分かった気がして面白かった。
〇今後、柏崎の歴史が深まりあきらかになっていくことがたのしみです。
〇写真等を使って、新しい情報も説明されて良かった。無理だと思いますが、一部でも良いので、出土した遺物も見せていただきたかった。
〇西岩野だけでなく、同時期の周辺の遺跡の話が聞けたのは非常にありがたかった。１つの遺跡だけでなく、周囲の環境や遺跡とからめた広い地域というくくりで、今後も話をしてもらえるとありがたいです。
〇西岩野遺跡はとても重要な遺跡。ぜひ保存と活用を。
〇文新協さん主催の西岩野遺跡についての講演を何回か拝聴させていただいていますが、毎回知らなかったことを聞けて、今後も楽しみです。歴史的に価値があるないにかかわらず、調査が続き、新しい報告が聞けることを楽しみにしています。
〇２年前から進んだお話を聞かれて大変良かった。保存については、市民の関心が高まる事が必要と思います。今回と同様な講座を続けられる事を望みます。ファンを増やして欲しいです。
〇全国に保存された遺跡ありますが、保存したら維持の方法を考えて下さい。柏崎市民の力を信じたい。
〇西岩野遺跡が柏崎市だけでなく県内においても非常に重要な遺跡であることが良く分かりました。また今日の講演で自分が住んでいる地域にこれだけの遺跡があり、このような重要な遺跡があると知れるとても良い機会だと感じました。とても勉強になりました。
〇遺跡の保存は後世につながる物だから大切にしないといけない。遺跡について興味を持って勉強したい。　〇前方後円墳の柏崎市内での存在が興味深いでした。

恒例の遺跡見学会は日帰りで群馬の古墳・埴輪を見学！

新潟県民のための群馬の埴輪見学会のオススメ

文化財保存新潟県協議会会長　橋本博文

復元された埴輪列（八幡塚古墳）

新潟県の隣の群馬県には古墳が１万６千基以上も確認されています。そのうち約１割の1600基近くの古墳に埴輪が認められます。一方、新潟県内では約650基の古墳の存在が明らかになっているうちで埴輪の存在が知られている古墳はいくつあるでしょうか？何と、今のところ2基の古墳しか知られていません。なぜ、そのようなことが起こったのでしょうか？

新潟で初めて埴輪の存在が明らかになったのは、今から20年ほど前に遡ります。南魚沼市飯綱山10号墳で、その埴輪は壺の形をした壺形埴輪と言われるものです。その後10数年して最近ようやくポピュラーな円筒埴輪といわれるものが、新潟市東区の牡丹山諏訪神社古墳で見つかりました。しかし、残念ながら、今のところ人物や動物の形をした形象埴輪は確認されていません。新潟県民にとって、埴輪は教科書などでみるしかない、なじみの薄い存在です。わずかに、新潟市江南区の北方文化博物館や西蒲区潟東歴史民俗資料館、そして中央区新潟大学旭町学術資料展示館で県外出土の埴輪の断片を見ることができるのみです。

そこで、このたび「埴輪王国」の群馬を訪ね、その「本物」の埴輪に親しんでくることを企画しました。とくに、見学地の一つ高崎市保渡田八幡塚古墳は発掘調査後、古墳築造当時を再現した埴輪配列が見られることで有名です。また、群馬県立歴史博物館で綿貫観音山古墳の等身大に近い実物の埴輪群像も見学したいと思います。

併せて、保渡田八幡塚古墳で繰り広げられる古墳祭りの様子も視察し、それによって新潟市東区牡丹山諏訪神社古墳で最近行っている古墳祭りの今後の開催の参考にしようではありませんか。

行き帰りの車中では、それらの埴輪の研究に関わった講師が皆さんの質問にお答えします。新潟県民の皆さんの多くのご参加をお待ちしております。

詳細は同封のチラシをご覧ください。

日　　時：２０１９年**10月19日（土）**８時００分～１８時３０分

見学地（予定）:「群馬の森」群馬県立歴史博物館

かみつけの里博物館・保渡田古墳群見学　※「かみつけの里古墳祭り」開催中

編集後記　文新協では引き続き、柏崎市西岩野遺跡の動向を注視しています。遺跡の保存と活用には地元をはじめとする市民の方々の力が必要です。今後も、ご協力をお願いします。

この『会報』は文全協会員でなくても、文新協行事に参加された方には可能な限りお送りしています（ご参加なき場合は郵送を取りやめる場合があります）。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は事務局までご一報下さい。

文化財保存新潟県協議会事務局（入会についてのお問い合わせも）
電話：090-2735-5536（木村）
Ｅ－ｍａｉｌ：bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp
ホームページ：http://www014.upp.so-net.ne.jp/bunsin-k/

文全協のホームページもぜひご覧ください。